

KAKATO



Nicole Kido

私は美容院に行くのが嫌いだ。

その時間があつたらやりたいことは山のようにある。

本も読みたいし、遊びにも行きたい...

ただ、あんまりみっともないのは仕事を持つ女性としてNGなので

重い腰をえいやっ！と持ち上げて美容院に予約する。

予約するのは待たされるのがいやなのでなく、自分が中止しないための予防線だ。

出来れば思い通りのヘアスタイルを希望するので

恥ずかしながらネットで東京の人気美容院のスタイルをダウンロードする。

それを情けなくも少し言い訳をしながら店員さんに渡す。

「ちょっと恥ずかしいんですけどー。こんな感じになりますかねえ。」

店員さんもつられてか（心底か？）笑いながら「了解です！」と言う。

色の白い線の細いお兄さんに鼻息がかからぬよう

細心の注意を払い窮屈な時間が始まる。

気まずくならぬよう自分から話題をふる。

しかし、いつも思うのだが美容師さんは新聞・本を読んでいない人が多い。

そればかりかTVや映画の話さえ出来ない人もいる。

いったい美容師はどのくらい忙しいのか？

そうやって、窮屈な時間を過ごしても完璧に気に入ることはない。

結局帰ってからくしゃくしゃっと手直しするのだ。

地方の美容院だからなのか？東京ならいけるのか？

お金をいっぱい払えばいいのか？

そんな私の美容院ジプシーは続くのであった...

## プロの仕事

---

私は文句言いだ。

でもそれはプロに対してだけと思う...たぶん。

友人には寛容であるし、年下の子のタメ口も一向に気にならない。

むしろ親しい人とは年齢や職業は関係ない。

が、しかーし。プロに対しては違う。

先日の美容院の君！

プロはお客様を紳士・淑女のように扱わねば。

なのに親しげされたり、気を抜いてタメ口などきかされるとプロ意識を疑うのだ！

そこへ行って何を求めているか分かっているのか？

変身する自分にふさわしい扱いと空間なのだ。

銀行の窓口のお姉さん。

じいちゃんばあちゃんに「ここに書くンよ。わかる？」と言ってはダメだ。

「ここに書いてください。分からはければお声かけください。」

とスマイルで言うべきだ。

おじいちゃんおばあちゃんにも名前はある。

お客様に媚を売るのではない。

あくまでもお客様に敬意を払って欲しいのだ。

どんな時でもどんな人にでも、美しい言葉、美しい態度で接したら

きっとお客様は喜ぶよ。

## おばさん

---

子どもが数人集まると、急に気分が大きくなって  
大口をたたいたり世間に迷惑をかけることをする。

だけど、彼らはこどもだ。  
まだ何もわからないこどもだ。  
成長途中なのだ。

一番たちが悪いのはおばさんの集団だ。  
という私も世間でいうおばさんの位置にあたる。  
でも私は自分をおばさんと思っていないし  
はしたなく皆様に迷惑をかけることは（酒の席は別）しない。

先日も某有名カジュアルショップでおばさん軍団と遭遇。  
大きなお尻を振りまわし、大声でジーンズを何本もはいていた。  
私もジーンズを見たかったのだけどぐいぐい追いやられてしまった。  
可愛そうなジーンズたち…。

いずれにせよ、集団のおばさんは面倒くさい。  
マナーは無視するし、なんか言われると「おばちゃんだから許してー！」と言う。  
だめです。すでに可愛くないし許せません。

絶対あんな風にはならん！と心の中で誓う。